

ニュースレターQ

天保8年(1837年)創業 / 第170号(2021年9月1日発行)

スギウラ株式会社

〒370-0006 群馬県高崎市問屋町 2-2-8

【HP】 <http://www.kamisugiura.co.jp/>

【TEL】 027-361-5808 (代) 【FAX】 027-361-1272 【MAIL】 water@kamisugiura.co.jp

【SHOP】 <http://www.dotrakuichi.com/sugiura> 【Twitter】 @sugiura_maruq

今月の用紙：日本の色上質 肌（8月生産より『うすだいだい』に名称変更）

梅雨が明けてから猛烈な暑さになり、冷房の効いた室内・車内から出たくない日々が続いています。8月8日には、岐阜県多治見市で今年国内で初めて40度を超えました。残念なことに、今年も去年と同様、夏祭りなどのイベントごとがごとく中止になり、涼を感じる機会がめっきり減ってしまいました。「暑さ寒さも彼岸まで」の彼岸まで、冷房などで物理的に涼をとり、なんとか乗り切りましょう。

さて、9月1日は防災の日です。大正12年(1923年)に関東大震災が発生した日であることと、台風シーズンであるということで、「災害への備えを怠らないように」という戒めを込めてこの日になったようです。この防災の日前後には、各地で防災訓練が行われています。高崎市でも、昨年は中止になりましたが、激甚化する災害に対する実動訓練は急務ということで、今年は見学者をごく少人数として実施するようです。

この猛暑もある意味では“災害”だと思います。災害の中では、適切な対処をすることで被害を極限まで減らせる猛暑を、しっかり乗り切っていきましょう。(M)



TANT KIRA

特種東海製紙(株)さんよりタントシリーズの新製品「タントキラ」が7月に発売されました。特種東海製紙(株)さんは多くのファンシーペーパーを生産しており、弊社で開催したペーパーショウにも出展してくださり、素晴らしい作品の展示をしていただきました。「タント」とはイタリア語で「たくさん」という意味で、タントシリーズのメインの「タント」はその名に恥じない全200色という豊富なカラーバリエーションで構成されています。

今作の「タントキラ」は「タント」をベースにパール調の光沢加工を片面に施しています。キラキラときらびやかに輝く上質で華やかな光沢が特徴で、高級感のある包装紙やパッケージ、御祝い事の制作物などに幅広くお使いいただけます。

規格は4/6判のY目(1091×788mm)で連量は各70kg・100kgの全10色をご用意しております。ご不明な点や、見本帳が必要な場合は是非弊社までお問い合わせください。

(み)

【製品名】 TANT KIRA

【規格】 四六判Y目 (1091×788mm) 連量 70kg・100kg 全10色

色名 K-4/K-5/K-9/K-50/K-54/K-62/K-65/K-68/K-71/K-73



山下清

ある所に山下清の絵がありました。夜空に赤や黄色や青色の七つの大小の花火が丸く開き、下の川面も染めている。さらに河原の見物客が丁寧に描かれている。色彩がとてもきれいだ。画名は「長岡の花火」で複製画であった。本物はちぎり絵だそうだ。色紙を手でちぎって糊で貼っていくもので、根気のいる作業だ。山下清はそれを何層にも重ねて貼っていったというからすごいな。

山下清の美術館は飛騨高山と諏訪湖の近くにある。コロナが落ち着いたらぜひ原画を見に行きたい。

山下清は昭和15年18才から昭和29年32才まで14年間、断続的に放浪を繰り返した。線路を歩き、駅のベンチで寝るような…。食事はむすびをもらった。むすびをもらえなかったらどうするの？と後年問われてこう答えている「もらえるまで歩くからむすびをもらえないことはないんだな。」この根気もすごい。

(H)

頭の体操

次の言葉のグループは、ある規則にしたがっています。

リンゴ → バナナ → 猫 → 犬 → 象 → □ → 女の子 → ……

□に入るのは、1～4のどれでしょう。お考えください。

1.男の子 2.鳥 3.花 4.キリン

読書の秋の由来

秋と言えば、食欲の秋やスポーツの秋等に並んで読書の秋がありますが、なぜ秋に読書なのでしょう？ その由来を考えてみたいと思います。

読書の秋の由来は、日本ではなく中国の唐の時代の漢詩と言われています。詠んだのは唐の詩人として高名な韓愈で、学問の大切さを伝えた「符読書城南詩」の中の一節で、「時秋積雨霽 新涼入郊墟 燈火稍可親 簡編可卷舒」と詠んでおり、これを意識すると「秋になり長雨があがって空も晴れ、涼しさが丘陵にも及んでいる。ようやく夜の灯に親しみ、書物を広げられる。」となります。この一節がきっかけで、涼しい秋の夜は読書に適しているという考えが浸透したと言われています。昔の人も、暑い夏が終わってゆっくり読書できる秋を心待ちにしていたのかもしれませんが。

読書の秋の考えや習慣が日本に根付いたきっかけは、夏目漱石が1908年に発表した小説「三四郎」で上記の詩を引用したことがきっかけとされています。しかし、読書の秋というフレーズ自体の登場は大正に入ってからようです。1918年(大正7年)9月21日付の読売新聞の見出しに使われていましたが、このころはあまり浸透していなかったようです。読書の秋が広まったのは昭和になってからで、戦後に始まった読書週間の発展とともに、急激に広まり使われるようになりました。読書週間が秋にあるのは、読書の秋という言葉があったからだと思いがちですが、実は読書週間を開催するにあたり参考にしたアメリカの「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が秋の時期だったからです。その後も読書週間は毎年読書に親しんでもらおうと開催されており、ポスターで告知するなど秋のイベントとしてすっかり定着しました。こうしたことから、読書週間が秋にあることが、秋といえば読書というイメージをいっそう強めたといえます。

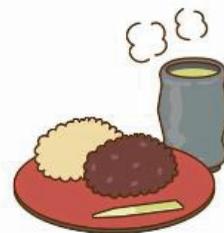
また、人間の集中力は気温や湿度が関係しているので、夏の暑さが過ぎ去って気温が低くなる秋は物事に集中しやすい季節となり、ゆっくり読書をして過ごすのに適しているといえます。8月の真夏日と比べて過ごしやすくなった秋の夜に好きな本をゆっくりと楽しむのもいいと思います。

(お)

「ぼたもち」と「おはぎ」

9月に入り、もうすぐ秋のお彼岸です。お彼岸は春と秋の年2回、春分の日と秋分の日を中日とする前後7日間のことです。日本では墓参りや法要を行い、ご先祖様や故人を偲び供養するのが昔からの風習です。お彼岸のお供え物といえば、春は「ぼたもち」秋は「おはぎ」が一般的です。どちらももち米とあんこを使用した食べ物ですが、季節によって呼び名が変わります。「ぼたもち」は春に咲く牡丹の花にちなんで、「おはぎ」は秋に咲く萩の花にちなんで名付けられているそうです。使用されているあんこにも違いがあり、材料となる小豆は秋が収穫時期のため、とれたてで小豆の皮も柔らかいので粒あんでおはぎを作り、春になると皮が固くなるためこしあんにしてぼたもちを作るそうです。

なぜぼたもちやおはぎをお供えするのかは諸説ありますが、小豆の赤い色には魔除けの効果があると古くから信じられており、邪気を払う食べ物としてご先祖様にお供えされてきたと言われています。また、昔は貴重であった砂糖を使うぼたもちやおはぎをお供えすることで、ご先祖様に感謝の気持ちを伝えることに繋がるようです。(く)



頭の体操 解答

答えは3の「花」です。

まずそれぞれの言葉を英語に変換してみましょう。

Apple → Banana → Cat → Dog → Elephant → □ → Girl

このように、変換後の文字の頭文字に注目するとアルファベット順になっているのがわかります。

□に入るのはEとGの間の文字、つまりFで始まる単語となりますので、頭文字がFのFlower、

「花」が答えとなります。

オススメ商品

『ウォーターサーバー』

気温が下がり、過ごしやすくなってきましたね。季節の変わり目で体調を崩しやすいと思いますのでしっかり対策を続けてきたいと思います。

9月になったとはいえ油断して熱中症にならないように「こまめな水分補給」をおすすめ致します。喉が渴いたと思っても、仕事中は忙しくて中々席を立てずに後回しになってしまうことがあるかもしれません。喉が渴いてから飲むのでは遅いので、手元にあらかじめ水分を置くようにしましょう。先に用意するのが難しければ時間を決めるのはいかがでしょうか。

現在「熱中症予防声かけプロジェクト～ひと涼みしよう」というキャンペーンを実施中です。その声かけの中のひとつに「飲み物を持ち歩こう」という内容があります。軽い小さなボトルも売っています。この機会に探してみるのも良いと思います。

さて、弊社では「ウォーターサーバー・水宅配」事業をしております。いつでも冷たいお水とお湯が飲めますので水分補給にピッタリです。勿論、お好みでコーヒー等の飲み物にご利用いただけます。会社では事務所や給湯室、ご家庭でしたらリビングに設置すればすぐ飲めますので、とても便利です。直射日光を避けて、いつでも手の届く場所に置いてご自由にお使いいただければと思います。

1本12リットル入りで、1本無料お試しも出来ます。会社、ご自宅、施設など様々なお客様にご利用いただいております。ご質問等ございましたら、どんな些細なことでも構いませんので、弊社担当営業までお気軽にお問合せください。

(m)

